

二〇二五年四月二五日

拓かれし街のなぞへに躑躅燃ゆ  
トロ箱にパセリの育つ島の路地  
喬木を絡め絡めて懸かり藤  
新緑の故郷は水の音の中

むべ  
なつき  
うつき  
ほたる

二〇二五年四月二四日

蒼天へ溶け入る色や棚の藤  
さらさらと囁くごとく竹落葉  
手を休め稚児に乳やる草刈女  
外洋を裂く航跡に風光る

よし女  
むべ  
みきお  
澄子

二〇二五年四月二三日

栈橋の荷役横切る海つばめ  
お試しのショートステイへ春帽子  
春の陽を呑み込む河馬の大欠伸

なつき  
せいじ  
みきお

二〇二五年四月二二日

深々と礼してたらの芽を貰ふ  
春一日かけて百鉢蘭手入  
藤房の天地返しに風いなす  
幾度も船の汽笛や沖霞  
筆先のやうに菖蒲の蕾立つ

よし女  
うつき  
よし女  
わかば  
あひる

二〇二五年四月二二日

糠の香を纏ひ筍茹であがる  
緑摘む病後の手指励ましつ  
ゴム長につきて乾きしくづ若布

むべ  
きよえ  
なつき

二〇二五年四月二〇日

ゴビからと聞けば許せる黄砂かな  
幼から貰ふ手作り染たまご  
袖触れて花山椒の香り立つ  
春の瀬戸巨船小船とせめぎあひ  
窓越しに囀り移り行きにけり  
故郷の昔のままの紫雲英畑

明日香  
あひる  
澄子  
うつき  
和繁  
うつき

二〇二五年四月一九日

国産みの島へと延びる橋朧  
若葉影縫ひゆくフロントガラスかな  
茎立の菜花お安く売られをり  
登窯埋むなぞへの花菜畑  
花菜畑縮緬波の海を背に  
木隠れに紅を透かせて山躑躅

うつき  
むべ  
澄子  
むべ  
せいじ  
うつき

毎日句会みのる選・二〇二五年四月二七日